

医療・福祉最前線

新春対談

佐藤健司

福祉のあるべき姿を求めて

新井好松

新井好松



佐藤健司
1961年、群馬県西部の山村に生まれ、学生時代が終るまで群馬から一歩も出たことが無いという郷土愛あふれる生活を送る。社会人になり初めて群馬の地から出、旧安田火災海上保険埼玉エリア圏内に就職。リゾート会社に転職した後、群馬に戻り、職員4人の小さな訪問介護事業所ウエルビーイングを設立し介護事業へ参入。現在は有料老人ホームを中心に9事業所の他、グループ会社5社を経営。



新井好松
1974年群馬県生まれ。社会福祉法人に勤務し、高齢者や身体障がい者の介護相談業務を行う。その経験を生かし、数多くの高齢者施設の設立運営に携わる。また、テラを設立し、福祉事業のコンサルティングを行う。現在、ソレイユとして放課後等デイサービス事業所3カ所を運営。一般社団法人日本福祉創造協会代表理事。

佐藤「私は高齢を起点に現在、老人ホームを9事業所運営しています。保険やリゾート開発という全くの異業種からこの介護業界に後発として参入しました。いわばマイナスからのスタートです。で苦勞も多かったのですが、逆に介護業界の既成概念にとらわれることなく、新鮮な感覚で福祉をとらえ取り組んできました。新春そうそう、恐れ多いテーマですが、よろしくお願ひします」

新井「こちらこそ、よろしくお願ひします。私は障がい児を対象とした放課後デイサービス」

「時代の流れを反映する福祉の現場」

佐藤「先ほど、新井社長が、00年以前には介護の仕事が無かったと話されていましたが、その通りだと思います。当時は産業として存在しておらず、福祉は一般的に行政サービスの

結果、働く人の報酬が下がり、人材も不足してしまっているという負のスパイラルが始まってしまっています」

新井「施設は介護報酬を下げられた上で、サービスの質も人材教育も求められます。働く人の介護離れが起きている。規制のハードルを下げ、介護現場への積極的な外国人雇用を行うべきだと思います」

佐藤「国も労働力不足を補うため、『働き方改革』を提唱しています。私もどもにもかわりのある『地域包括ケアシステム』なども始まっています。行政の中には、今の『措置』時代の考え方が福祉は金を出していくだけの一方向性というものがあ

上の論理ではなく、失敗しながらも、実際に動いていかないと達成感もありません」

新井「障がいを持つ方の中には、より自立した生活を送れる可能性のある方がたくさんいます。より自立した生活とは経済的な自立も含まれます。現状ではなかなか障がいのある方が一般就労することは困難な状況にあります。制度的な問題もあると思いますが、企業の側と障がいを持つ方が接点がないことが何より大きな障がいを持っていると思います。障がいがあっても、障がいがあるからといって、社会参加という観点からみると、自立の形だと思

「健康の定義」の核になる言葉で、施設運営の勉強中に知り、感動してそのまま社名にしてしまいました」

新井「そんな背景があるためですね。社名に込めた思いには似たものを感じます」

佐藤「社名に恥じないような活動をしたいと常に思っています」

新井「それは私も同じ思いです」

「医療と介護の連携」

佐藤「医療と介護の連携は高齢化社会を考えると、避けられない問題。先の『地域包括ケアシステム』も、この連携なくしては成り立たないと思います。現在、医療機関同士はうまく連携がとれていますが、以前は同じ地域で患者獲得競争が行われ、大学医の取り合いや最新設備の導入合戦の時代もあったと聞きます。けれど、これはお互いに得策ではないと考え、お互いが得意分野を専門にする中で、『急性期』と『リハビリ・慢性期』など地域でのすみ分けによる連携が行われるようになってきました」

新井「福祉は認識されないのが一番、空気のような存在で当たり前にそこにある人だけが使っている人だけが使おうではなく、誰にとっても必要な時、使いたい人が使えるように、特別な人ではなく、みんなのもの、社会のものですね」

佐藤「困っている人を助けるという強者の視点ではなく、自分も同じだ」という視点が大事。福祉は特別なことではなく、人が人をいたわり、喜ぶのが本来あるべき姿。今はそれが希薄になってしまっている。バリアフリーは障がい者のためにあるのではなく、みんなのために必要だからある。障がい者にとって便利にとっては健常者にとっても便利。障がい者がいて当たり前、前の世の中にならな

「健康の定義」の核になる言葉で、施設運営の勉強中に知り、感動してそのまま社名にしてしまいました」

新井「そんな背景があるためですね。社名に込めた思いには似たものを感じます」

佐藤「社名に恥じないような活動をしたいと常に思っています」

新井「それは私も同じ思いです」

「医療と介護の連携」

佐藤「医療と介護の連携は高齢化社会を考えると、避けられない問題。先の『地域包括ケアシステム』も、この連携なくしては成り立たないと思います。現在、医療機関同士はうまく連携がとれていますが、以前は同じ地域で患者獲得競争が行われ、大学医の取り合いや最新設備の導入合戦の時代もあったと聞きます。けれど、これはお互いに得策ではないと考え、お互いが得意分野を専門にする中で、『急性期』と『リハビリ・慢性期』など地域でのすみ分けによる連携が行われるようになってきました」

新井「福祉は認識されないのが一番、空気のような存在で当たり前にそこにある人だけが使っている人だけが使おうではなく、誰にとっても必要な時、使いたい人が使えるように、特別な人ではなく、みんなのもの、社会のものですね」

佐藤「困っている人を助けるという強者の視点ではなく、自分も同じだ」という視点が大事。福祉は特別なことではなく、人が人をいたわり、喜ぶのが本来あるべき姿。今はそれが希薄になってしまっている。バリアフリーは障がい者のためにあるのではなく、みんなのために必要だからある。障がい者にとって便利にとっては健常者にとっても便利。障がい者がいて当たり前、前の世の中にならな

「資格なくても、実際の業務に活かせるスキルを習得し、資格取得を目指す。現場の能力として必要な介護職員。スキルはあるが、人間関係が思うようでない介護職員。どうしたら本当のスキルが発揮できるのでしょうか...」

1人ひとりの「知識」「技術」「人間関係」を正しく評価することが必須となります。

介護職員スキルマトリックス診断

「介護職員スキルマトリックス診断」とは、介護職員の「知識」「技術」「モチベーション」や「職場内のコミュニケーションの状況」を自己評価の中から診断し、課題や目標を効果的に見つけることができる診断で、ウエルビーイングのグループ会社、ピーエムシー様が開発した商品です。

ひとりひとりの想いを大切に ひとりひとりの笑顔が輝くように

カラフルから ☎370-2212 群馬県甘楽郡甘楽町福島 972-20 ☎0274-67-7766
 カラフルふじおか ☎375-0023 群馬県藤岡市本郷 709-1 ☎0274-25-8373
 カラフルまつじた ☎379-0225 群馬県安中市松井田町八城 110-1 ☎0273-381-8320

ウエルビーインググループ

(株)ウエルビーイング
 〒370-0004 群馬県高崎市井野町 376
 TEL:027-386-8700 FAX:027-386-8668

(株)マリーズケイ・エージェンシー
 (株)ヌヴェル・ミシオン
 NPO法人福祉人材開発センター
 (一社)日本福祉創造協会
 ピーエムシー(株)